

基本目標 2	まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市
個別目標 1	水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します
施策 1	魅力と個性あふれる都市をつくります

1 蒲田駅周辺のまちづくり

ランドデザインの重点としている「駅を中心とする地区整備」は、「蒲田駅周辺再編プロジェクト」に基づき、公共基盤を再整備するとともに、周辺街区の建物更新を促進しながら、蒲田駅周辺の一体的なまちづくりを進めます。

決 算 額	67,117,680 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【蒲田駅周辺再編プロジェクトの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東口駅前広場及び地下自転車駐車場の初動期整備計画について、関係機関との協議を行いました。併せて東口駅前広場の中長期整備計画案を検討しました。 ○東口駅前広場整備計画の都市計画変更に向けて、駅ビル荷捌き車両動線検討のための周辺交通量調査、地下自転車駐車場形状検討のための埋設物調査などを行いました。 ○西口駅前広場検討部会を 4 回開催し、「西口駅前広場初動期整備デザイン基本プラン」を作成しました。また、着工を早めるため、デザイン基本プランの策定と並行して測量・設計も進めました。その他、デザイン基本プランで示したサインのデザイン方針に基づき、駅前広場のサイン整備の具体化について検討しました。 ○蒲田都市づくり推進会議を 2 回開催し、意見交換等を行いました。 	3
<p>【駅周辺街区のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建替え意向のある街区について、建替え手法等の勉強会を 3 回実施しました。 ○駅前街区の地権者を対象にした駅前街区全体会を 2 回実施しました。 ○街区部会参加意向の調査を実施、283 権利者に発送し、29 件の回答がありました。参加意向を示した権利者は 13 件でした。 ○街並み誘導型地区計画によるまちづくりの事例として、神奈川県横浜市の元町商店街・元町仲通りの見学会（参加者 20 人）を実施しました。 ○まちづくりニュースの発行や個別面談を行い、情報提供や意向調査を行いました。 	3
所管部	まちづくり推進部、都市基盤整備部

2 大森駅周辺のまちづくり

ランドデザインの公共基盤整備の重点としている池上通りの拡幅と、駅西口駅前公共空間の確保に向け、周辺街区も含めた駅西側の整備構想を策定し、実現に向けた取り組みを進めます。あわせて、臨海部への玄関口としてのまちの活性化を図ります。

決 算 額	26,773,200 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【駅西側周辺のまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「大森八景坂地区まちづくり協議会」による検討委員会（10 回）と地権者意向調査を支援したことにより、全体会で「大森八景坂地区まちづくり計画案」がとりまとめられ、区長へ提案されました。 ○西側駅周辺の都市基盤施設整備計画を検討し、補助 28 号線整備後における駅舎との歩行者動線等を検討しました。併せて、補助 28 号線（閘坂～環七）及び補助 33 号線等における現況及び整備後の VR データを作成しました。 	3
<p>【駅周辺の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東口駅周辺の再整備・機能強化を検討するための素材として、現況の VR データを作成しました。 ○東京都港湾局所有防潮護岸上部通路の開放について、対象区間における望ましい位置付け等を検討しました。また、地元町会や沿道マンション住民等との意見交換（7 回）を行うとともに、関係機関との打合せ（7 回）を行いました。それらの結果をもとに、概略設計をまとめました。 	3
所管部	まちづくり推進部

3 身近な地域の魅力づくり

地域拠点である私鉄主要駅周辺において、歴史・文化・産業などの地域の特性を活かした魅力あるまちづくりを進めます。京急蒲田駅西口周辺では、地元関係者の合意形成を図りながら駅前空間や住環境・商業環境を整備し、同時に公共自転車駐車場や帰宅困難者受入施設の整備を進めます。糀谷駅周辺では、子育て支援施設、高齢者支援施設、防災倉庫、公共自転車駐車場などの公益施設の整備を行い、災害に強い快適なまちづくりを進めます。

決 算 額	5,612,227,368 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【地域拠点駅周辺のまちづくり】</p> <p>○用地取得について、12 画地のうち 9 画地を取得し、未取得用地は 3 画地となりました。</p> <p>○電線共同溝設計委託（大岡山駅周辺）を行いました。</p> <p>○街築整備工事（大岡山駅周辺、延長 140m）を行いました。</p>	3
<p>【京浜急行線連続立体交差事業に伴う京急蒲田駅西口、糀谷駅、雑色駅の周辺地区のまちづくり】</p> <p>◎京急蒲田西口周辺地区</p> <p>○駅前市街地再開発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前再開発組合：総会（1 回）、臨時総会（1 回）、理事会（22 回）等の実施を支援しました。さらに、本体工事及び補償費の補助金及び負担金を交付するとともに、協議・調整を支援しました（交付額：34 億 5155 万円）。 <p>○京急蒲田西口周辺重点地区のまちづくりに関する総合的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京急蒲田西口地区まちづくり研究会：総会（1 回）、役員・運営委員会（9 回）、視察会（1 回、ハッピーロード大山商店街）、広報紙発行（9 回）の実施を支援しました。その他、団体活動支援のため団体活動費を助成しました（助成額：8 万円）。 ・センターエリア協議会：総会（1 回）、役員会（12 回）、広報紙発行（3 回）の実施を支援した。その他、団体活動支援のため団体活動費を助成しました（助成額：4 万円）。 ・センターエリアにおいて 4 ブロック別の共同化検討協議会が設立されました。平成 26 年度は 3 つのブロックの協議会に補助金を交付しました（助成額：3 協議会 455 万 5400 円）。 ・「街並み誘導型地区計画」をセンターエリア全域に拡大しました（委託額：1,328 万 4000 円）。 <p>◎糀谷駅周辺地区</p> <p>○総会（1 回）、臨時総会（2 回）、理事会（22 回）の開催等を支援しました。さらに、解体工事及び本体工事の補助金及び負担金を交付するとともに、協議・調整を支援しました（交付額：20 億 1,342 万 6,000 円）。また、公益施設 4 課との内装工事設計、管理等の協議を進めました。</p> <p>◎雑色駅周辺地区</p> <p>○雑色まちづくり研究会の活動支援として、総会（1 回）、運営委員会（10 回）、再開発検討会（3 回）の開催を支援しました。</p> <p>○まちづくりガイドライン案の作成及びアンケートの実施を支援しました（委託額：864 万円）。</p> <p>○団体活動支援のため、雑色まちづくり研究会に団体活動費を助成しました（助成額：5 万円）。</p> <p>○雑色まちづくり研究会広報紙、「ぞうしき通信」（5 回）、「再開発検討会報告」（1 回）の発行を支援しました。</p>	3
所管部	都市基盤整備部、連続立体事業本部

4 美しいまちなみづくり

各地域の特性に応じた自然や多様な歴史資源、生活文化を、まちづくりに活かすため、平成 25 年 10 月に策定した「大田区景観計画」に基づき、個性と魅力あふれる良好な景観形成を誘導します。

決 算 額	5,243,173 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【景観計画の推進】 ○景観法及び景観条例に基づく届出等はおりのとおりでした。 ①事前協議書提出 141 件 ②行為の届出 110 件 ③行為の変更届 16 件（平成 25 年度分 11 件、26 年度分 2 件、東京都内容分 3 件） ④行為の完了報告書 28 件（平成 25 年度分 13 件、26 年分 8 件、東京都内容分 7 件） ○景観アドバイザー会議を 24 回実施しました。この中で 23 件の助言（公共施設への助言 11 件、特定大規模建築物等への助言 12 件）を行いました。	3
所管部	まちづくり推進部

5 区民との連携・協働の推進

良好な生活環境の向上を図るために行う建築計画等に関する開発調整や、地域のまちづくりに関する課題解決に向けた自主活動への支援を行います。

決 算 額	7,269,830 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【建築計画等に関する開発調整】 ○地域力を活かした大田区まちづくり条例第 22 条に基づく開発事業者との協議が成立し、協定を締結した件数は以下のとおりでした。 ・住宅宅地開発事業：19 件 ・集団住宅建設事業：74 件 ・一定規模建設事業：24 件 ・合計：117 件	3
【地域まちづくり支援事業】 ○「地区まちづくり協議会」に新規認定 1 団体を加えた 6 団体に、まちづくり活動助成金を交付し、自主的にまちづくり活動を行う団体を支援しました。 ○各協議会の定例会等へ出席することにより活動状況を把握し、まちづくり認定審査会の意見反映や区のまちづくり方針との整合を確認するとともに助言・調整を行いました。 ○新たなまちづくり活動団体の設立に向けた支援を行いました。	3
所管部	まちづくり推進部

基本目標 2

まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市

個別目標 1

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

施策 2

快適な交通ネットワークをつくります

1 新空港線の整備推進

国際化した羽田空港へのアクセス機能の強化は、区内の移動の利便性を向上させるとともに、人々の国内外への往来をさらに快適なものにします。JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅を結ぶ新空港線の整備を、平成 27 年度事業着手に向けて推進します。

決 算 額	513,344,633 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【整備事業に向けた検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新空港線の整備に関する課題解決や沿線のまちづくりに関する調査委託を発注し、計画の深度化を進めると共に、下丸子のまちづくりなどについて検討しました。 ○国、東京都、鉄道事業者と個別具体の課題解決に向けた協議を 7 回実施しました。 ○早期整備着手に向けて、整備主体などを検討するための業務委託を発注するとともに、庁内検討会を 5 回実施しました。 	2
<p>【区民協議会と連携した促進活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新空港線「蒲蒲線」区民整備促進協議会を、国会議員、都議会議員、関連区職員など 30 人程度を招待して開催しました。新たな大田区の提案（東急多摩川線を複線で京急蒲田駅まで延伸する段階整備案）を提示し、来場された 300 人規模の参加者から一定の評価を得られました。 ○デジタルサイネージを活用して区民等への情報提供を実施しました（4 回）。 ○区民整備促進協議会で発表した新たな大田区の提案をホームページに掲載し、区民へ情報提供しました。 	2
<p>【関係者との協議及び事業推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通政策審議会において小委員会の委員である学識経験者の方にヒアリングを実施（10 回）し、今後の事業の進め方などのアドバイスをいただきました。 ○新空港線早期整備着手に関する要望活動を、大田区を含めた新空港線の沿線の関連 9 区長（大田、港、新宿、品川、目黒、世田谷、渋谷、豊島、板橋）の連名で、都知事、国交大臣宛に実施し、区のホームページで情報提供しました。 ○区部周辺部環状公共交通（新空港線を含む）の要望活動を、都知事、国交大臣宛に実施し、区のホームページで情報提供しました。 ○各区（豊島区、新宿区、渋谷区、目黒区、港区、品川区）の商工会議所支部に新空港線整備に向けた協力要請を実施するとともに、支部構成員向けにパンフレットを提供しました。 ○関係者（国、都、鉄道事業者）合意形成に向けて、協議を進めました。 	2
所管部	まちづくり推進部

2 都市計画道路の整備

主要幹線道路間の交通円滑化を図り、安全で快適な歩行者空間を確保するため、街路整備を推進します。平成28年度から37年度までの概ね10か年で整備する路線を示した「東京における都市計画道路の整備方針（仮称）」を、東京都及び関係区市町で連携・協働して策定します。

決算額	431,605,796 円
主要施策の成果（平成26年度の取り組み内容）	進捗状況
【区画街路第1号線（大岡山付近）/用地取得・整備】 ○用地取得について、12画地のうち9画地を取得し、未取得用地が3画地になりました。 ○電線共同溝設計委託（大岡山駅周辺）を行いました。 ○街路整備工事（大岡山駅周辺、延長140m）を行いました。	3
【補助44号線その2（上池台付近）/用地取得・整備・測量】 ○1画地を取得し、残り2画地は用地取得に向けて条件整備中です。 ○電線共同溝予備設計委託を行いました。	3
【補助43号線（仲池上付近）/用地取得・整備・測量】 ○東京都道路整備保全公社と折衝委託協定を結び、用地取得を進めました。 ○用地未取得の27画地の内、5画地を取得し取得率が56.2%になりました。	3
【補助38号線（羽田旭町付近）/用地取得・整備・測量】 ○土壌汚染調査、物件調査、移転補償算定を実施しました。 ○道路及び電線共同溝詳細設計委託（復元測量・基本設計修正・予備設計修正含む）を行いました。また、管理舗装を行いました。	3
【第四次事業化計画の策定（区内全域）】 ○隣接自治体（川崎市、世田谷区）の都市計画道路に関するヒアリングを実施しました。 ○東京都と区内都市計画道路についての協議を2回実施し、評価項目の策定検討を行いました。	3
所管部	まちづくり推進部、都市基盤整備部

*【区画街路第1号線（大岡山付近）/用地取得・整備】については、「身近な地域の魅力づくり」の取組事項「地域拠点駅周辺のまちづくり」と同様の内容となります。決算額の重複を避けるため、当該経費は「身近な地域の魅力づくり」にのみ計上しています。

3 自転車等利用総合対策の推進

「大田区自転車等利用総合基本計画に基づく整備計画」を推進し、自転車等駐車場や自転車走行環境を整備します。区民や鉄道事業者など関係機関との連携を強化し、駅周辺の放置自転車を含め自転車等利用者に対する交通ルールの遵守、交通マナーの向上などの対策を図ります。

決 算 額	426,404,560 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【自転車駐車場の整備】</p> <p>◎京急線高架下都市計画自転車駐車場の整備</p> <p>○都市計画大田第 2 号大森町駅自転車駐車場他 5 箇所の基本・実施設計委託（大森町駅 1 か所、梅屋敷駅 1 か所、京急蒲田駅 2 か所、雑色駅 1 か所、糎谷駅 1 か所）を行いました。</p> <p>◎京急蒲田駅周辺の自転車等駐車場の整備</p> <p>○京急蒲田駅東口自転車駐車場を拡張してオープンしました。</p> <p>○産業プラザ自転車駐車場を増設してオープンしました。</p> <p>◎糎谷駅周辺の自転車等駐車場の整備</p> <p>○西糎谷四丁目臨時自転車駐車場をオープンしました。</p>	3
<p>【自転車走行環境の整備】</p> <p>○「大田区自転車等利用総合基本計画に基づく整備計画（平成 25 年 3 月）」の考え方に基づき、大田区における自転車通行空間の整備基本方針（整備手順及び整備パターン等の基準）を作成しました。</p> <p>○都の提案に基づいてオリンピック・パラリンピック会場周辺の走行環境整備ルートの庁内調整を行い、推奨ルートを決しました。</p> <p>○警察との協議の中で平成 26 年度（南馬込五丁目 44 番～六丁目 1 番先）、平成 27 年度（南馬込五丁目 35 番～四丁目 8 番先）の道路整備後に、まとめて自転車走行レーンを整備することが連続性の観点からも効率的かつ効果的であるとの判断に至り、26 年度中の整備（南馬込五丁目 44 番～六丁目 1 番先）は見送りました。</p>	2
<p>【ルール・マナーの教育・啓発】</p> <p>○大田区自転車等駐車対策協議会を 2 回開催しました。</p> <p>○大田区自転車等駐車対策協議会の運営支援のため、業務委託を実施しました。</p> <p>○自転車安全利用に関する条例の制定に向けて調査・準備を行いました。</p> <p>○自転車押し歩き区域の拡大（JR 蒲田駅西口）を行いました。</p> <p>○おおた区報（6/1 号）の 1 面で自転車安全利用に関する記事を掲載し、啓発を図りました。</p> <p>○会場としてはめずらしい公道交差点でのスケアード・ストレイト方式による交通安全教室を 2 回実施するなど、区民への啓発を積極的に行いました。</p>	3
所管部	都市基盤整備部

4 京浜急行線沿線アクセス道路・京急蒲田駅東口駅前広場等の整備

京浜急行線の連続立体交差事業を契機として、アクセス道路や駅前広場などの整備を進めます。まちづくり事業や幹線道路整備との調整を図りながら、京浜急行線沿線の魅力あふれるまちづくりを推進します。

決 算 額	1,927,952,035 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【用地取得】</p> <p>○本線付属街路第 2 号線のうち、土地収用法に基づく権利取得裁決及び建物明渡裁決の申請を行っていた 2 か所のうち 1 か所は、権利取得が確定し、更地化を推進しました。残る 1 か所は、東京都が受託している国道拡幅事業と競合する箇所のため、協議の結果、協働して任意買収での取得をめざします。</p> <p>○本線付属街路第 4 号線及び補助線街路第 42 号線について、平成 26 年 10 月 20 日及び 11 月 7 日付で、すべての画地の任意買収が完了しました。</p> <p>○本線付属街路第 5 号線の用地取得について、任意買収が完了しました。</p>	3
<p>【アクセス道路・京急蒲田駅東口駅前広場等の整備】</p> <p>◎街路設計・街路整備</p> <p>○本線付属街路第 1 号線、同第 5 号線の 2 路線の整備が完了しました。</p> <p>○本線付属街路第 2 号線の下水道整備、電線共同溝整備、街路整備、補助線街路第 328 号線の電線共同溝整備・街路整備、大田区画街路第 3 号線の街路整備を実施しました。</p> <p>◎京急蒲田駅と東口駅前広場を繋ぐ大田歩行者専用道第 1 号線の整備及び駅前広場の一部整備</p> <p>○駅前広場公衆トイレ設置工事が完了しました。</p> <p>○大田歩行者専用道第 1 号線が完成しました。</p>	3
所管部	都市基盤整備部、連続立体事業本部

基本目標 2	まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市
個別目標 1	水と緑を大切にし、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します
施策 3	潤いとやすらぎのあるまちをつくります

1 拠点公園・緑地の整備

区内のみどりの総合的な機能拡充を図り、みどりの拠点を形成するため「都市計画公園・緑地の整備方針」に基づく優先整備区域の早期整備や羽田空港跡地などの臨海部や内陸部での新たなみどりの拠点となる公園・緑地の整備を進めます。

決 算 額	431,536,635 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【田園調布せせらぎ公園】 ○拡張用地の地権者折衝を進め、対象地の現況測量及び移転補償物件調査を実施しました。 ○がけ地の保全工事を実施し、竣工しました。	3
【佐伯山緑地】 ○I 期地用地を取得しました（第 6/7 期、612.77 ㎡）。 ○新設トイレ位置について入口付近に設置するよう要望があり、地元調整を行った結果、反対意見が多く建設が困難となったため、平成 26 年度事業執行を中止しました。	3
【鶉の木松山公園】 ○拡張部（出張所仮設庁舎跡地）の事業認可を取得しました（約 0.12ha、平成 28 年度末まで）。事業認可の取得に当たっては、事業予算の平準化を図るため、事業期間を平成 26 年度から 28 年度末までの 3 か年で設定しました。 ○拡張部用地を取得しました（第 1/2 期、644.61 ㎡）。 ○鶉の木松山公園拡張工事の設計を完了しました。	3
【洗足池公園】 ○拡張部（鳳凰閣及び図書館周辺）の事業認可を取得しました（約 0.3ha、平成 30 年度末まで）。 ○公園東部基本計画を策定しました。 ○池月橋架替工事について、詳細設計を完了しました。 ○バリアフリー改修工事（池の西側園路整備、だれでもトイレ 1 棟）を完了しました。 ○水質浄化施設の修繕工事を完了しました。	3
【多摩川台公園】 ○拡張整備部用地を土地開発公社で代行取得しました（約 897.98 ㎡）。 ○拡張整備部基本計画を策定しました。 ○バリアフリー改修工事の設計を完了しました。	3
【羽田空港跡地の広場緑地整備】 ○平成 27 年度の事業化へ向けた基本計画、基本設計、予定事業スケジュール等に関する庁内、関係機関調整を行いました。	3
所管部	都市基盤整備部

2 地域に根ざした公園・緑地の整備

区民との協働による公園・緑地の新設・拡張やリニューアル整備などの機会をとらえ、多様な世代の人が利用しやすく、「地域の庭・広場」として地域に親しまれ、区民に愛される魅力ある公園づくりを進めます。

決 算 額	153,563,688 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【公園の新設・拡張整備】</p> <p>○水神公園休憩所新築工事実施設計委託は地元調整により遅れが生じたため、平成 26 年度委託を中止し、27 年度に改めて設計委託することとしました。</p> <p>○地元説明会を 3 回行い、休憩所建築工事の調整が完了しました。</p>	2
<p>【大規模公園の移動円滑化整備】</p> <p>○多摩川台公園バリアフリー改修工事設計委託を完了しました。</p> <p>○本門寺公園、洗足池公園、平和の森公園のバリアフリー改修工事を完了しました。</p>	3
<p>【公園リニューアル・長寿命化対策の推進】</p> <p>○道塚第三児童公園、古川児童公園の改良工事設計委託を完了しました。</p> <p>○洗足池公園の池月橋の架替工事設計委託を完了したほか、ハッ橋の改修工事を完了しました。また、水質浄化施設修繕工事を完了しました。</p> <p>○千鳥いこい公園の改良工事（擁壁）設計委託及びバリアフリー改修設計委託を完了しました。</p> <p>○馬込西公園トイレ及び遊具の改修工事を完了しました。</p> <p>○仲蒲田公園のバリアフリー改修設計委託を完了しました。</p> <p>○蒲田本町二丁目公園の改良工事を完了しました。</p>	3
<p>【大森南圃場の再整備】</p> <p>○都市緑化の拠点施設の機能を維持しながら、公園としての再整備を目指し、基礎調査業務委託において「大森南圃場再整備構想」案を作成しました。</p> <p>○庁内連携を図りつつ、地域検討会や NPO 団体とのヒアリング等を実施し、それらの意見を構想に反映しました。</p>	3
<p>【遊具の安心・安全対策の推進】</p> <p>○公園遊具利用の安心・安全を高めていくために継続的な定期点検を実施し、調査結果を各まちなみ維持課で行う遊具の状態把握と修繕計画で活用しました。</p> <p>○宮ノ下児童公園、稲荷坂児童公園、東矢口二丁目児童公園の複合遊具を予定どおり設置しました。</p> <p>○蒲田本町二丁目公園は、京浜急行連続立体工事の作業ヤードとして占用していた事業者が現況復旧工事を行う中で、複合遊具を設置しました。</p>	3
<p>【健康遊具の整備】</p> <p>○介護保険課や各まちなみ維持課と連携し、(財) 体力づくり指導協会と既存施設の安全性・耐久性について検証を行い、製品改良への提案を行いました。</p> <p>○以下のとおり健康運動遊具を 9 基設置しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬込西公園：腹筋ベンチ 1 基、アームトレーナー 1 基、ツイストボード 1 基 ・大森西一丁目児童公園：パネルラダー 1 基 ・本二児童公園：背のばしベンチ 1 基、ツインバー（鉄棒） 1 基 ・西六郷三丁目公園：リズムボード 1 基 ・東六郷ひまわり児童公園：くるくるサイクル 1 基、昇降ステップ 1 基 	3

【樹木の保全更新】		3
○多摩川台公園のサクラ樹勢調査診断を実施しました。対象樹木 360 本に対し、整理調査 (300 本)、外観診断 (50 本)、精密診断 (10 本) を行いました。		
○洗足池公園の樹木更新工事を実施し、植付 (3 本)、伐採・抜根 (3 本) を行いました。		
所管部	都市基盤整備部	

3 多摩川ふれあいの場の整備

多摩川で活動する区立小学校や NPO 法人などと連携しながら、「水辺の楽校」による自然体験や環境学習をはじめ、区民が多摩川に親しみながら相互交流を図れるような事業を支援します。

決 算 額	6,611,220 円	
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）		進捗状況
【「水辺の楽校」活動の支援】		3
○「うのき水辺の楽校」については、嶺町小学校の生徒を中心とした多摩川の自然体験やポート教室などの活動に関して、社会教育課、環境保全課、都市基盤管理課 3 課が連携して、PR 活動や国土交通省との調整など支援を行いました。		
【ふれあい拠点の整備】		3
○「羽田水辺の楽校」については、NPO 法人多摩川とびはぜ倶楽部が主体的に実施している大師橋干潟の自然体験や環境学習活動を支援するため、本羽田公園の展望デッキの改修工事及び自然体験教室の拠点となるプレハブ施設の設置を完了しました。また、「羽田」と「うのき」2 つの水辺の楽校の交流イベントが行われました。		
所管部	都市基盤整備部	

4 呑川緑道の整備（風の道のまちづくり）

呑川は水と緑の環境軸として、川沿いの道路や護岸の緑化、景観と環境に配慮した舗装などの散策路整備を進めます。呑川の歴史や自然環境など地域資源を活かして、観光の視点を取り入れたサイン整備を引き続き進めます。

決 算 額	20,615,040 円	
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）		進捗状況
【緑道整備】		3
○南雪谷五丁目 14 番～15 番先の設計委託予定箇所について、企業工事（ガス工事）復旧に伴い道路が整備されたため、対象箇所を遮熱舗装の効果が大きい東雪谷五丁目 28 番～29 番先に変更して行いました。		
○整備工事（東雪谷五丁目、延長 70m）を行いました。		
【サイン整備】		3
○呑川緑道の案内誘導サインを整備に向けて、現地調査や庁内調整、関係団体ヒアリングを踏まえて、「散策路サイン整備基本計画（平成 22 年作成）」の見直し及び基本設計を行いました。		
所管部	都市基盤整備部	

5 桜のプロムナードの整備

水と緑のネットワークの充実を図るため、かつての内川の流れや洗足流れ、馬込桜並木に至る散策路整備を進めます。散策路沿いの歴史や自然環境など地域資源を活かして、観光の視点を取り入れたサイン整備を進めます。

決 算 額	86,059,800 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【散策路整備】 ○南馬込五丁目 21 番～四丁目 8 番先の設計委託を行いました。 ○南馬込五丁目 44 番～六丁目 1 番先（延長 220m）の整備工事を行いました。	3
所管部	都市基盤整備部

6 地域力を活かしたみんなのみどりづくり

ふれあいパーク活動やおおた花街道など、区民、事業者、行政の連携による道路・公園などの維持管理や利活用を推進します。公園・緑地などを地域住民が「地域の庭・広場」として利活用できるような活動を支援します。

決 算 額	13,575,842 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【ふれあいパーク活動の推進】 ○活動団体の P R も兼ねた腕章を作成しました。また、区報や区統合ポスター、地域力推進会議での活動への参加 P R に加えて、「地域デビュー応援のつどい」への参加、環境フォーラムでのパネル展示、大岡区工業連合会や金融機関への訪問を実施するなど、積極的に P R 活動を行いました。さらに、「18 色の緑づくり」とも連携し、公園が「地域の庭・広場」として活用していただけるよう取り組みました。 ○ふれあいパーク活動を行う団体は、129 団体から 134 団体に増加しました（平成 30 年までの目標団体数：162 団体）。	3
【おおた花街道の推進】 ○8 地区（田園調布二丁目地区、鶉の木二・三丁目地区、大岡山駅前広場、久が原地区、山王二丁目地区、池上六・七丁目地区、東矢口一・二丁目地区、田園調布五丁目地区）において、地域の方々や NPO 団体との連携・協働により、区が管理している駅前花壇や道路の植樹帯などの維持管理を行いました。	3
【公園施設利活用の推進】 ○平和の森公園展示室は、18 色のみどり説明会会場として使用したほか、地球歌の日コンサートに協力しました。来館者は 7,316 人でした（うちクラフト参加者 854 人、イベント参加者 737 人）。 ○大森南圃場は、都市緑化の拠点施設としての機能を維持しながら、公園としての再整備目指し、「大森南圃場再整備構想」案を作成しました。	3
所管部	都市基盤整備部

基本目標 2

まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市

個別目標 1

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

施策 4

安全で安心して暮らせるまちをつくります

1 木造密集市街地の整備促進

不燃化建替え助成などを行い、木造住宅が密集する市街地、地区防災道路沿道の不燃化・耐震化を促進します。

決 算 額	62,792,041 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【住宅市街地総合整備事業】</p> <p>○平成 26 年度からの密集事業導入に伴い、羽田の整備計画に位置付けている 3 本の重点整備路線の整備に向け、道路の現況測量説明会を 2 回（参加者延べ 45 人）、測量結果報告会を 2 回（参加者延べ 58 人）開催し、関係権利者に報告しました。また、個別にヒアリングを実施（訪問件数、延べ 191 件）し、拡幅計画線を含めた詳細な説明を行い、事業への意向把握に努めました。</p> <p>○羽田地区防災まちづくりの会を 4 回開催し、地区計画の導入に向け先進地区の視察も含めた検討を行いました。</p>	3
<p>【都市防災不燃化促進事業】</p> <p>○今年度の沿道不燃化建替え助成の申請実績は 10 件、不燃化促進区域内における助成対象外の建替え件数は 11 件でした。</p> <p>○不燃化促進区域内である大森中地区は、「大森中・糀谷・蒲田地区防災街区整備地区計画」の区域内であることから、地区計画の届出時に助成対象案件に対する事業周知に努めました。</p>	3
<p>【不燃化特区制度を活用した不燃化まちづくり助成事業】</p> <p>○大森中地区における不燃化特区区域の助成申請として、壁面後退奨励金交付事業が 7 件、戸建て建替え助成事業が 13 件ありました。</p> <p>○特区区域内における助成対象外の建替え件数は、54 件でした。</p> <p>○不燃化特区制度を活用し、不燃化特区指定申請を行っていた「補助 29 号線沿道地区」（東馬込二丁目の一部）及び「羽田二・三・六丁目地区」の整備プログラムが東京都の認定を受け、27 年 4 月 1 日付けで指定を受ける予定です。</p>	3
所管部	まちづくり推進部

2 建築物の耐震改修促進

耐震化助成などを行い、主要道路沿道の民間建築物などの耐震化を促進します。

決 算 額	523,758,120 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗 状況
<p>【住宅・マンションなどの耐震化促進】</p> <p>○木造住宅の耐震診断費の定額化と助成割合の拡充及び分譲マンションの診断、設計、工事の助成限度額引き上げを行いました。</p> <p>○診断助成は 211 件（住宅 188 件、マンション 14 件、その他 9 件）、設計助成は 81 件（住宅 76 件、マンション 5 件）、工事助成は 81 件（住宅 78 件、マンション 3 件）でした。</p> <p>○耐震化普及啓発のため、木造住宅耐震講習会（5 回、参加者 126 人）、分譲マンション啓発隊による延べ 10 日間の戸別訪問（対象 337 棟）、大田区住まいづくりフェアにおける分譲マンション耐震講習会（参加者 27 人）、耐震改修工法展示会（来場者 125 人）、木造住宅耐震セミナー（参加者 27 人）を実施しました。</p>	3
<p>【緊急輸送道路沿道建築物の耐震化促進】</p> <p>○指示の期限が過ぎてもなお耐震診断に着手していない対象建築物所有者に対し、さらに戸別訪問等による啓発を行った結果、耐震診断実施率は 99%（対象 209 棟のうち 207 棟実施）になりました。</p> <p>○改修設計助成の実績件数は 27 棟で、前年度の 11 棟から大幅に増えました。改修工事助成の実績件数は 7 棟で、対象の半数を占める分譲マンションにおいて改修工事に向けた設計内容や工事費用等の合意形成に時間が掛かっており、助成期限である 27 年度に申請がずれ込む見通しです。</p>	3
<p>【沿道耐震化道路沿い建築物の耐震化促進】</p> <p>○沿道耐震化道路沿い建築物のうち、住宅・マンションのコンサルタント派遣 6 件、耐震診断 9 件、耐震改修設計 3 件、耐震改修工事 3 件を実施しました。</p> <p>○住宅・マンション、緊急輸送道路沿道以外の建築物は階数、床面積等の助成要件が厳しいため、緊急輸送道路と避難所を結ぶ沿道耐震化道路沿い建築物は建物用途を問わずに助成を行いました。対象となる建築物のうち、住宅・マンション以外の建築物で診断助成件数は 1 件でした。</p> <p>また、住宅以外の木造建築物に対する独自のパンフレットを作成するなど、PR にも努めました。</p>	3
所管部	まちづくり推進部

3 橋梁の耐震性の向上

区が管理する橋梁の中で、緊急道路障害物除去路線や鉄道を跨ぐ橋梁など、防災上重要な優先対策橋梁 73 橋のうち、未整備の橋の架替え・耐震補強整備を計画的に進めます（33 橋の架替え整備・耐震補強整備に着手）。

決 算 額	1,243,730,886 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【架替え整備】 ○新馬込橋は 6 月 22 日に本体工事を完了し、全面開通を行った後、取付道路などの残工事を 3 月 5 日に完了しました。	3
【耐震補強整備】 ◎呑川に架かる橋 ○天神橋、清水橋、清水橋添架人道橋、宝来橋添架人道橋の耐震補強工事を完了しました。 ○本村橋は実施設計を完了しました。 ◎跨線橋（鉄道を跨ぐ橋） ○宮前跨線人道橋の耐震補強工事を完了しました。外川田跨線人道橋、山王道跨線人道橋は、平成 27 年度も引き続き同工事を実施します。 ○馬込橋、馬込歩道橋、二本木橋、大谷橋の補修調査を完了しました。	3
所管部	都市基盤整備部

4 下水道の整備

東京都と連携しながら、下水道管の耐震性の強化や、雨水管整備による排水能力の向上など、区民の安全と快適な暮らしを支える下水道の整備を進めます。

決 算 額	877,096,307 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【雨水管などの整備】 ○分流地区の雨水管整備（延長 780m）を完了しました。 ○京急連続立体に伴う管きよ改良工事（延長 1,190m）を完了しました。	3
【下水道管の耐震化】 ○災害復旧拠点及び地区内残留地区の下水道耐震化工事（300 か所）を完了しました。 ○災害復旧拠点及び地区内残留地区のマンホールの浮上抑制対策工事（90 か所）を完了しました。	3
所管部	都市基盤整備部

5 統合治水対策

頻発する集中豪雨や台風などの大雨から区民の安全を守り、安心できる生活を支えるために、道路・公園・建物などからの雨水の流出を抑制し、下水道や河川に流入する雨水の量を軽減する総合的な治水対策に取り組みます。

決 算 額	66,394,912 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【浸水被害地区浸水対策の東京都との連携】</p> <p>○東京都下水道局では、「豪雨対策下水道緊急プラン」及び「東京都豪雨対策基本方針（改定）」を定めていますが、上池台地区は、この基本方針の中で時間 75mm の対策強化地区に指定されたため、本格的な検討を進めました。その結果「整備の基本的な考え方」として「①呑川への既設吐口の改造」「②浸水被害の発生した低地部をポンプ排水区へ切替え」「③既存の洗足池幹線を補う新たな幹線の整備」を定めました。また、区と下水道局合同による「上池台地区浸水対策説明会」を開催しました。</p>	3
<p>【透水性舗装】</p> <p>○以下のとおり、透水性舗装工事（歩道・車道）を実施しました（計 4,475 m²）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南馬込五丁目 44 番～六丁目 1 番先：600 m² ・城南島七丁目 1 番～3 番先：2,630 m² ・北千束三丁目 13 番～16 番先：449 m² ・大森西三丁目 22 番～五丁目 30 番先：374 m² ・大森西六丁目 15 番～蒲田二丁目 7 番先：422 m² 	3
<p>【道路、公園などの浸透ますの設置】</p> <p>○池上二丁目内 5 か所、上池台二・三丁目内 20 か所に浸透ますを設置しました。</p>	3
<p>【開発事業者に対しての雨水流出抑制の指導】</p> <p>○雨水貯留槽設置の助成（151 件）を行いました。</p> <p>○雨水浸透施設設置の助成（1 件）を行いました。</p>	3
所管部	まちづくり推進部、都市基盤整備部

6 災害時水上輸送ネットワークの向上

災害時における水上輸送ネットワークを構築するため、河川や運河を利用した緊急時の輸送ルート確保や船着場の整備・改築を行うとともに、関係団体などとの連携体制を強化します。

決 算 額	0 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【防災船着場の整備・改築】</p> <p>○大森ふるさとの浜辺公園を水辺のスポーツ・レクリエーション拠点として再整備するため、基本計画策定委託を発注しました。この中で、既存の防災船着場の機能更新として、災害時に帰宅困難者の搬送や平常時の観光振興にも活用できる浮棧橋形式の船着場の事業化計画を策定しました。</p>	3
<p>【関係団体などとの連携】</p> <p>○「災害時における船舶による輸送等に関する協定」に基づき、大田漁業協同組合、東京湾遊漁船協同組合及び大田区五ヶ浦漁業組合連合会と矢口地区総合防災訓練時に物資輸送訓練を実施しました。これにより、災害時の多摩川での水運による物資輸送手順が確認され、協定団体との連携体制を強化しました。</p> <p>○島部の水上輸送ルートの確保に関して、島を結ぶ橋は阪神淡路大震災クラスの地震に耐え得るものですが、想定外の事態に備え、京浜島の京浜運送株が所有する船着場を災害時に活用できるよう、災害時協力協定を締結する方向で話し合いを進めました。これにより、区民や事業所の従業員等が島に孤立した場合でも安全を確保することが可能となりました。</p>	3
所管部	地域力推進部、都市基盤整備部

7 移動を円滑にするユニバーサルデザインの推進

「ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針」及び「移動等円滑化推進方針」に基づき、多くの人が集まる拠点や公共施設、民間施設のユニバーサルデザイン環境を充実させます。

決 算 額	4,268,600 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【かまた街なか” すいすい” プラン（移動等円滑化推進計画）の実施】</p> <p>○特定事業を実施する事業者を対象に、事業の進捗管理を実施しました。</p> <p>○第 11 回大田区移動等円滑化推進協議会を開催し、スケジュール等を説明しました。</p> <p>○蒲田駅及び大森駅周辺地区の事業者を対象とした事業者部会を実施し、進捗を確認するとともに事業の実施を促しました。</p> <p>○蒲田駅及び大森駅周辺地区の区民を対象とした区民部会を実施し、進捗状況を説明しました。</p> <p>○蒲田駅周辺地区における特定事業計画の進捗状況（完了事業）は 50 事業/142 事業（35%）でした。</p>	4
<p>【おおもり街なか” すいすい” プラン（移動等円滑化推進計画）の実施】</p> <p>○特定事業を実施する事業者を対象に、事業の進捗管理を実施しました。</p> <p>○第 11 回大田区移動等円滑化推進協議会を開催し、スケジュール等を説明しました。</p> <p>○蒲田駅及び大森駅周辺地区の事業者を対象とした事業者部会を実施し、進捗を確認するとともに事業の実施を促しました。</p> <p>○蒲田駅及び大森駅周辺地区の区民を対象とした区民部会を実施し、進捗状況を公開しました。</p> <p>○大森駅周辺地区における特定事業計画の進捗状況（完了事業）は 14 事業/72 事業（19%）でした。</p>	3
<p>【主要拠点及び生活関連施設などの点検及び整備】</p> <p>○移動等円滑化推進方針に基づき、大森・蒲田駅周辺地区において以下のとおりUDパートナーとの合同点検を実施しました（参加者数延べ 26 人）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字ブロック点検（大森駅周辺）：参加者 5 人 ・旧逆川道路（整備後）、京急蒲田駅東口交通広場（図面）点検：参加者 16 人 ・さぼーとびあ周辺道路（整備前）点検：参加者 5 人 	3
<p>【区有施設のユニバーサルデザインの点検及び整備】</p> <p>○道路や公園などの移動等円滑化を図るため、新設・改修等の整備に伴いUDパートナーとの合同点検を以下のとおり実施しました（延べ参加人数 24 人）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川台公園（整備前）点検：参加者 12 人 ・桜のプロムナード（整備後）及び本門寺公園（整備後）点検：参加者 12 人 	3
所管部	まちづくり推進部、都市基盤整備部

8 都市基盤施設の維持更新

道路・橋梁などの維持管理手法を対症療法型から予防保全型へ転換し、都市基盤施設を延命化するとともに、PDCAサイクルに基づく計画的な維持管理を行い、施設の安全性を確保します。

決 算 額	367,354,980 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【橋梁長寿命化修繕計画の推進 ー橋梁の定期点検・橋梁長寿命化修繕計画の策定ー】</p> <p>○118 橋の定期点検を実施し、橋梁長寿命化修繕計画、耐震補強計画の見直しを行いました。</p> <p>○稲荷橋、大塚橋、荏野橋、三十八号人道橋の補修詳細設計を完了しました。</p>	3
<p>【道路の維持・更新計画の推進 ー道路の点検と維持更新計画の策定ー】</p> <p>○大田区道（測定車侵入不可能な階段や狭小な区道等を除いた延長約 730 k m）を路面性状測定車で調査し、国土交通省の「総点検実施要領(案)【舗装編】」の書式に準拠して調査結果をまとめました。また、同要領に準拠して路面の劣化損傷について評価を行いました。</p> <p>○区内全域にわたり、173 か所の道路標識類を点検調査しました。</p>	3
<p>【道路の維持・更新計画の推進 ー道路の維持・更新ー】</p> <p>○アスファルト舗装工事を以下のとおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中馬込三丁目：舗装面積 2,236 m² ・中央三丁目：舗装面積 1,550 m² ・南雪谷三丁目 5 番～7 番：舗装面積 499 m² ・南千束三丁目 6 番～7 番：舗装面積 536 m² ・仲六郷一丁目 39 番～二丁目 5 番先：舗装面積 320 m² ・矢口三丁目 16 番～21 番先：舗装面積 1,295 m² ・北糺谷一丁目 8～13 番先：舗装面積 1,136 m² ・羽田四丁目 8～18 番先：舗装面積 1,405 m² <p>○道路改修工事を以下のとおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大森北一丁目 14 番～23 番：舗装面積 1,130 m² 	3
所管部	都市基盤整備部

9 生活安全の確保

区道に設置されている街路灯を、環境面とライフサイクルコストに優れた LED 街路灯として整備することで、歩行者や自転車の夜間における視認性を高め、区道における安全を確保します。私道における防犯灯設置助成を自治会・町会などに行うとともに、区民と連携したパトロールを行い、地域の生活安全を確保します。

決 算 額	600,052,371 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【LED街路灯整備の推進】 ○以下のとおり街路灯改良工事（LED）を実施しました。 ・大森西一丁目 1 番先：1,053 か所 ・東嶺町 1 番先：1,039 か所 ・南六郷三丁目 1 番先：1,023 か所 ・萩中三丁目 6 番先：978 か所 ・田園調布本町 1 番先：553 か所	3
【防犯灯設置助成】 ○申請に基づき、自治会・町会等に対する設置助成（26 件、33 基）を実施しました。 ○自治会・町会等の要望に応え設置助成要綱の改正を行い、LED 灯を工種に追加しました。	3
所管部	まちづくり推進部、都市基盤整備部

10 交通安全の推進

JR 京浜東北線・東海道線を横断している学校踏切などにおいて、電車との接触事故の危険性を無くすため、安心して、安全に横断できる施設の整備を進めます。また、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、交通安全意識の普及と浸透を図るとともに、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けることにより交通事故防止を図ります。

決 算 額	25,650,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【踏切における安全対策の推進】 ○代替立体横断施設検討の基礎的資料となる測量、地質調査、構造比較設計（歩道橋、地下道）を完了しました。	3
【交通安全教育の推進】 ○幼児に対する安全移動教室を保育園等で実施しました（年 83 回）。 ○児童・保護者・区民に対する交通公園を使用した安全教室を 3 回実施しました。 ○高齢者に対する安全教室を老人いこいの家で 30 回実施しました。 ○スケアード・ストレイト*を 11 回実施しました。 ○交通安全だよりを発行しました（幼児・保育園児用 3 回、小学校低学年用 3 回、高学年用 2 回） ※実際に起きた交通事故の模様や事故につながる危険な行為、事故の発生しやすい場所や状況を再現し、プロのスタントマンがその場で実演してみせる交通安全教育の手法の一つ。	3
所管部	都市基盤整備部

基本目標 2	まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市
個別目標 2	首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります
施策 1	世界へ羽ばたくまちをつくります

1 世界と交流しにぎわう産業支援・文化交流施設の整備

産業支援機能や国内外の人々が交流できる機能とともに、羽田の歴史を後世に伝えるコーナーを備えた施設の整備を進めます。自然エネルギーの活用など環境に配慮したまちづくりを検討します。

2 水と緑のふれあいゾーンの整備

多目的広場の整備を推進し、潤いとやすらぎの親水緑地空間を創出します。あわせて、地域の防災機能の強化に資する空間としての整備を進めます。

3 空港跡地の交通結節点機能の充実

交通結節点機能を強化するため、天空橋駅前広場や跡地第1ゾーン内の道路などの整備を進めます。

決 算 額	72,901,091 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【産業支援・文化交流施設の整備推進】【多目的広場などの整備推進】</p> <p>【駅前広場及び道路などの整備推進】</p> <p>○跡地第1ゾーンに導入が想定される産業交流施設について、その整備と運営に関して官民連携を含む最適な事業スキームの調査を行い、整備の方針について検討しました。</p> <p>○「羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会」が設置され、①先端的医療技術とものづくり技術との医工連携の推進、②国際的な研究・交流・商取引を促進するための土地利用、③周辺のまちづくりと一体となった戦略的な都市・交通インフラ整備等を進める具体策について協議・調整を行いました。</p> <p>○10月1日、東京圏国家戦略特別区域会議において、羽田空港跡地を含む「東京圏国家戦略特別区域計画」が示されました。</p> <p>○跡地第1ゾーンにおける道路、駅前広場等、各種基盤施設の基本的な整備の方針について検討を行いました。</p> <p>○交通管理者協議を7回実施し、道路形状等について協議し、整備の方向性を確認しました。</p> <p>○ライフライン事業者など各種関係機関と協議、調整を行い、各ライフラインの情報収集・整理を実施しました。</p> <p>○跡地第2ゾーンの護岸整備等について、国土交通省と覚書に基づく協議を進めるとともに、これに伴う庁内関係部局調整を随時実施しました。</p>	3
所管部	産業経済部、まちづくり推進部

* 「世界と交流しにぎわう産業支援・文化交流施設の整備」「水と緑のふれあいゾーンの整備」「空港跡地の交通結節点機能の充実」は一体的に取り組んだため、主要施策の成果（平成26年度の取り組み内容）及び決算額についても一体としています。

基本目標 2

まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市

個別目標 2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

施策 2

未来につながる空港臨海部をつくります

1 空港臨海部土地利用(活用)の誘導

空港臨海部の産業のあり方や空港・港湾に隣接する立地特性を活かした土地利用(活用)の誘導などについて、にぎわい・観光の視点も踏まえながら地域との連携を積極的に図り、具体化します。

決算額	10,780,560 円
主要施策の成果(平成 26 年度の取り組み内容)	3
<p>【重点プロジェクトの検討・推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近年の中小企業の動向や土地利用の変遷を考慮し、空港臨海部全体の将来的な土地利用誘導の方向性を検討しました。 ○各島連絡協議会を計 7 回、3 島全体連絡協議会を 1 回実施しました。協議会では、各島の現況課題を整理し、個々の課題に対する今後の対応策を検討し、解決に向けて関係部署と協議しました。 ○島部企業へ立地特性、操業環境における強み等に関するヒアリング調査を実施しました(京浜島計 6 社)。 ○島部で行われている工場見学の実態を把握するため、ヒアリング調査を 5 社に実施し(京浜島 3 社、昭和島、城南島各 1 社)、工場見学と合わせて地域資源を回遊できる「まちあるきマップ」を作成しました。 ○東京モノレール及び南部流通業務団地四社連絡協議会へプロジェクト素案を説明し、流通センター駅及び駅周辺の今後の土地活用等についてヒアリング調査を行いました。また、民間事業者の開発計画に伴い、駅前広場等の交通基盤整備等について関係部署と協議を行いました。 ○公共交通機関からの歩行者のアクセス道について、現地調査を行い、歩行者及び自転車のアクセスルート案や、既存案内板の充実等に関する整備案を作成しました。 ○民間事業者へ区のプロジェクト素案を説明し、ヒアリングを行いました。また、誘導機能を検討するため、周辺土地利用の動向把握や現況調査、関連企業へヒアリングを行いました。 	
所管部	まちづくり推進部

*「空港臨海部土地利用(活用)の検討」と「空港臨海部交通ネットワークの拡充」は、一部一体的に取り組んだため、決算額は統合しています(重複を避けるため「空港臨海部土地利用(活用)の検討」のみに計上)。

2 中央防波堤埋立地の将来構想の検討

帰属問題について区民、区議会とも一体となって早期解決を図り、空港臨海部において、中央防波堤埋立地のポテンシャルを最大限に活かした将来の構想を国、都等関係機関とも協議しながら検討します。

決 算 額	4,914,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【関係機関との連携】 ○関係機関（東京都公文書館等）を活用し、歴史的沿革に関する資料の収集を図りました。 ○中央防波堤埋立地が大田区に帰属すべき論拠の構築に、関係機関の協力により収集した資料を活用しました。	3
【当区の主張の確立強化とアピール】 ○大田区の主張について歴史的沿革の整理を行いました。 ○大田区の論拠について、マスメディアからの取材を通じ広く発信しました。	3
【将来構想の調査研究】 ○中央防波堤埋立地将来構想に関する調査業務委託を行い、活用策についての方向性を整理しました。	3
所管部	区長政策室

3 空港臨海部交通ネットワークの拡充

空港臨海部の将来構想及び交通ネットワーク基礎調査を基に、空港臨海部のまちづくりと連動した道路網、公共交通機関、舟運などの交通ネットワークを拡充・整備します。国道 357 号の多摩川以南の整備促進を働きかけることにより、空港アクセス及び都市間交通を円滑化します。

決 算 額	0 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【空港臨海部道路網の計画検討・整備促進】 ○各島連絡協議会を計 7 回、3 島全体連絡協議会を 1 回実施しました。協議会では、各島の現況課題を整理し、個々の課題に対する今後の対応策を検討し、解決に向けて関係部署と協議しました。 ○臨海部主要交差点における交通渋滞について、現地調査を 5 回実施し、対策案の費用対効果等を検証しました。 ○民間事業者の開発計画に伴い、駅前広場等の交通基盤整備等について関係部署と協議を行いました。	3
【公共交通、舟運及び新たな交通システムの検討、整備】 ○内陸部から島部へのアクセス改善に向け、既存データの整理やヒアリング調査、現地調査を行いました。また、現状での課題を整理し、歩行者及び車両のアクセスルート案を検討しました。 ○臨海部に点在する地域資源を周遊する自転車推奨ルート案を作成し、関連部署と協議しました。 ○バス事業者と協議し、島部経由の既存バス路線の拡充が実現しました。	3
所管部	まちづくり推進部

*「空港臨海部土地利用(活用)の検討」と「空港臨海部交通ネットワークの拡充」は、一部一体的に取り組んだため、決算額は統合しています(重複を避けるため「空港臨海部土地利用(活用)の検討」のみに計上)。

4 海上公園の移管整備

東京都港湾局から移管予定の海上公園について、空港臨海部の特色を踏まえた活用を検討し、区立公園として再整備を進めます。

決 算 額	3,186,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【港湾局移管公園の活用検討】 ○東京都所管の昭和島北緑道公園の移管へ向け、東京都港湾局と調整を行い、公園改修に関する都区の役割分担、事業スケジュールが整いました。また、東京都港湾局においては、用地関係の測量業務、公園施設の基幹的改修に関する設計業務が終了しました。	3
【移管公園の再整備】 ○東京都所管の昭和島北緑道公園を区へ移管するにあたり、バリアフリー化を実施するとともに、サッカー等スポーツ利用を中心とした公園として、施設規模や具体的な整備内容を基本計画として取りまとめました。	3
所管部	都市基盤整備部

5 新スポーツ健康ゾーンの整備

大田区の特色である水辺を活かし、年代や性別を超えて誰でもスポーツを楽しめる水辺のレクリエーション拠点を「大森ふるさとの浜辺公園」を中心に整備します。空港臨海部に点在する公園との連携も視野に入れた事業展開をめざします。

決 算 額	2,700,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【調査検討・関係機関との協議】 ○空港臨海部における「新スポーツ健康ゾーン」について、庁内や関係機関、地元調整を進め、水辺のレクリエーション拠点である大森ふるさとの浜辺公園を中心に、近隣に点在する大規模公園との連携を図りながら事業展開するための方向性について、以下の項目の検討を行いました。 <ul style="list-style-type: none"> ・大森ふるさとの浜辺公園に隣接する下水道局用地（通称三角島）の多目的スポーツ施設としての活用 ・昭和島北緑道公園のスポーツ施設を中心とした再整備 ・森ヶ崎公園のサッカー場のリニューアル など 	3
【レクリエーション施設の整備】 ○大森ふるさとの浜辺公園を水辺のレクリエーション拠点として整備すべく、隣接する下水道局用地（通称三角島）の活用を含め、基本計画を策定しました。既存公園内には、レストハウスやカヌー置き場、必要とされていた日陰の増設等、また三角島には、運動施設としてビーチバレーコートや多目的広場等、水辺のレクリエーション拠点としてふさわしい新規導入施設の検討を行いました。レストハウスの施設規模や活用計画は、庁内、地元町会・自治会、大森ふるさとの浜辺公園を育てる会等関係者から意見を聴き、調整を行った上で策定しました。	3
所管部	都市基盤整備部

6 海辺の散策路整備

海老取川から平和島運河周辺などにかけて、空港臨海部の水とみどりの拠点を結ぶネットワークを形成するため、関係機関と協力しながら、散策路や公共溝渠の整備を進めます。

決 算 額	20,096,208 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【整備手法に関する検討】 ○北前堀の水門廃止と防潮堤及び海辺の散策路整備に関する新たな事業手法や都区の役割分担に関する協議を重ね、課題を整理しました。	3
【散策路の整備】 ○大森東 5 丁目 14 番～28 番先の見晴らし橋公園約 200m 区間における植栽及び花壇整備工事を完了しました。	3
【公共溝渠の整備】 ○南前堀及び旧呑川の縮切護岸の設計を完了しました。 ○貴船堀の縮切護岸の設計については、入札不調となり設計実施には至りませんでした。引き続き業務の進捗を向上させ、平成 27 年度中に設計を完了し、平成 28 年度以降に東京都の工事に合わせた工事着手を目指します。	2
所管部	都市基盤整備部

基本目標 2

まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市

個別目標 2

首都空港『羽田』と臨海部が世界への扉を開く、国際交流拠点都市を創ります

施策 3

国際都市として交流を育みます

1 18色の国際都市事業の推進

国際都市・多文化共生推進課と18の特別出張所が、地域団体と連携しながら各地域の独自性を活かし、「国際都市おおた」を実感できるような取り組みを行い、外国人と地域住民との交流促進を支援します。

決算額	95,000円
主要施策の成果（平成26年度の取り組み内容）	進捗状況
【地域の特色を活かした国際都市事業実施の支援】 ○国際都市・多文化共生推進課と18特別出張所が連携して、地域の特色を活かした行事を実施しました。さまざまな行事を通じて外国人と地域住民が交流することで、文化的背景や考え方の違いを相互に理解し合い、国際都市として外国人を迎え入れる地域づくりを進めることができました。	3
所管部	観光・国際都市部

2 全区的・持続的な国際交流の推進

国際交流事業を全区的・持続的に実施します。そのために、区民主体で柔軟かつ日常的に国際交流イベントなどを開催できる仕組みとして、(仮称)国際交流協会を開設します。

決算額	0円
主要施策の成果（平成26年度の取り組み内容）	進捗状況
【運営方法・主体などの検討】 ○国際交流協会をすでに設置している他の自治体の情報収集を実施し、大田区の実情に合った協会のあり方を検討しました。	3
所管部	観光・国際都市部

3 「国際都市おおた」の魅力と存在感を国内外に発信

「地域力」の向上が国際都市としての魅力を高め、国内外に大田区の国際都市としての魅力が伝わり、さらに「地域力」が高められるという、相乗効果を生み出すため、ものづくり、良好な住宅街と商業など多様な魅力を持つ大田区の強みを活かし、世界に開かれた大田区の魅力を国内外に発信します。

決 算 額	1,657,503 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【(仮称)「地域力・国際都市宣言」調査・検討・実施】 ○国際都市連絡調整会を3回実施し、庁内の部局の垣根を超えた横断的組織において、国際都市事業に関して情報交換を行いました。この中で、区内在住外国人や訪日外国人等にとってさらに魅力ある暮らしやすいまちづくりのための方向性を検討し、(仮称)「地域力・国際都市宣言」実施に向けて全庁的な機運醸成を行いました。さらに、国際都市推進に関する区民・有識者会議に連絡調整会の委員が出席することで、庁内外の連携態勢を築くことができました。	4
【(仮称)区民・有識者会議の設置】 ○「国際都市おおた」推進に関する区民・有識者会議設置要綱を制定し、委員を決定の上、会議を2回開催しました。 ○大田区ならではの国際都市像を定めるために、各委員が考える大田区の魅力や「国際都市おおた」のイメージを出し合い、区の実情について議論しました。2回の議論を通じて、羽田空港を有する立地条件から、「国際交流拠点」と「多文化共生」というキーワードについての共通認識を持つことができました。	4
所管部	観光・国際都市部

4 (仮称)「国際都市おおた大使」事業の実施

大使の特技・強みに合わせ様々な分野にわたって活躍する、(仮称)「国際都市おおた大使」を新設し、「国際都市おおた」推進の担い手とします。

決 算 額	0 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【制度調査・検討】 ○観光課と調整し、大田区観光大使（愛称：来～る大田区大使）を、観光目的以外の幅広い分野で活躍できるように要綱を制定し、「国際都市おおた大使」として刷新しました。	4
所管部	観光・国際都市部

基本目標 2	まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市
個別目標 3	ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します
施策 1	ものづくり産業を育み、世界に発信します

1 工場の立地・操業環境の整備

「大田区企業立地促進基本計画」に基づき、産業支援施設（賃貸工場、産学連携施設など）の管理・運営を行い、中小企業が事業の拡張や高度化のために行う取り組みに対して、経費の一部を助成することで、工場の立地・操業環境の向上を図ります。助成後も数年間にわたり、評価・検証を行い、事業効果を高めるとともに、区内への企業立地を促進させるため、企業誘致活動を推進します。中小企業の現状を踏まえた新たな施策を検討するため、製造業の取引実態などを把握する調査を実施します。

決 算 額	635,685,505 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【産業支援施設指定管理者による運営・支援】</p> <p>○産業支援施設指定管理者の適切な運営を確保するため、工場アパート（4施設）、創業支援施設（1施設）、産業連携支援施設（2施設）に対し、モニタリング調査を実施しました。その結果、工場アパートは評価項目全てで「きちんと履行している」の評価となりました。同様に、創業支援施設は97%、産業連携支援施設は97%、中小企業者賃貸住宅は100%の項目で「きちんと履行している」との結果でした。</p>	3
<p>【ものづくり工場立地助成】</p> <p>○大田区ものづくり集積の維持・強化のため、工場の新増設等又は区内及び区外からの移転に係る経費の一部助成を以下のとおり実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場立地助成活用企業：交付済み企業 29 件 ・工場設備投資助成活用企業：8 件 	2
<p>【製造業基本調査・新施策の実施 ー調査の実施ー】</p> <p>○平成 24 年度経済センサスデータ等から 6,908 件の調査対象企業を抽出し、9 月から区内企業へのアンケートの訪問配付、訪問回収を行いました（製造業回収率 71.2%、非製造業回収率 57.0%）。</p> <p>○区内企業へのヒアリング、区外企業の大田区への立地意向調査、1 都 3 県のインキュベーション施設※に対する大田区での創業意向調査、区外移転企業へのヒアリング調査等を実施しました。</p> <p>※ 起業や創業のために活動する入居者を支援する施設などのこと</p>	3
<p>【製造業基本調査・新施策の実施 ー新施策の検討ー】</p> <p>○上記の各調査結果を集計、分析し、今後実施していく大田区のものづくり産業等に関する施策を導き出しました。平成 27 年度から、区内企業の持続的創業支援、区外企業の誘致に関する「企業立地サポート事業」やファブレス型を含む研究開発型企業の立地助成制度を新設することとしました。</p>	3
<p>【企業誘致の取り組み推進】</p> <p>○企業誘致パンフレットを各種展示会で配布しながら、個別に誘致を行いました。</p> <p>○産学連携施設の入居募集を行い、区外から 3 社の企業が入居しました。</p> <p>○テクノ FRONT 森ヶ崎の入居募集を行い、区外から 1 社の企業が入居しました。また、ものづくり工場立地助成を活用した区外企業が 1 区内に立地しました。</p>	3
所管部	産業経済部

2 新製品・新技術開発の支援

中小企業が新製品・新技術を開発する際に要する経費の一部を助成し、中小企業の技術力、開発力を高める取り組みを支援します。助成後も数年間にわたり、評価・検証を行い、事業効果を高めます。

中小企業が開発した、優れた新製品や新技術を表彰することで、高い技術力を区内外にアピールするとともに、社内の技術力・開発力の向上意欲を高めます。

決 算 額	77,264,671 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【助成金交付】 ○新製品・新技術開発のための支援として、 ①開発ステップアップ助成（限度額 500 万円枠：交付件数 8 件(申請 12 件)） ②実用化製品化助成（限度額 500 万円枠：交付件数 6 件(申請 12 件)）、限度額 1,000 万円枠：交付件数 2 件(申請 2 件)） ③開発コラボ助成（2 年目継続の交付件数 2 件、今年度 1 年目交付件数 2 件(4 件中 3 件が事業計画認定企業)）を助成しました。	2
【コンクール表彰】 ○応募件数 22 件の中で、優秀な製品・技術が多数集まり、最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件、奨励賞 2 件、特別賞 4 件、合計 9 件が表彰され、目標の 6 件を上回りました。最優秀賞は、デザイナーとのコラボレーションにより、自社にて B to C 商品（個人顧客向け商品）を作成して下請け脱却を目指した新製品となりました。	3
所管部	産業経済部

3 取引拡大の支援

中小企業の取引機会を拡大するため、受発注相談窓口を常時開設するとともに、商談会や大手企業とのマッチング会を開催します。自主展示会の企画運営や国内展示会への出展支援を通じ、中小企業の製品・技術を広く周知するための機会を提供します。

決 算 額	76,226,161 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【受発注相談、商談会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○受発注相談窓口では 1,468 件（1 月あたり約 130 件）の相談を受けました。このうち、取引成立件数は 167 件でした。 ○区内企業巡回訪問を 511 社に実施しました。 ○モノづくり受発注商談会を 2 回開催しました（発注企業 172 社、受注企業 379 社、商談件数 1,557 件）。 ○川崎市産業振興財団が主催する大手企業とのマッチング会を 2 回開催し、区内中小企業 2 社と参加しました。 ○フード商談会を 1 回開催しました（バイヤー 12 社、区内事業者 29 社、商談件数 87 件）。 	3
<p>【展示会の開催、出展支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大田区加工展示商談会（100 社出展、来場者 2,149 人）を実施しました。また、おおた研究開発フェア（85 団体・96 ブース出展、来場者 1,826 名）を実施し、商談成立件数は 64 件でした。 ○国内展示会の出展では、医療・福祉、加工技術、連携協力先主催展示会、地方開催展示会のほか、合計 16 展示会（出展者数 46 事業者）に出展し、商談成立件数は 76 件でした。 	3
所管部	産業経済部

4 海外市場開拓支援

中小企業の優れた製品や技術を、アジアをはじめ世界に情報発信し、取引拡大につながる海外展開を支援します。特に、医療機器や航空・宇宙等先端分野をリードする欧州への展開に注力することなど、世界中の優れた技術を有する企業との連携・技術交流を強力に進めます。

各企業における海外展開のステップ（基礎知識習得、海外販路開拓、現地法人設立）に応じた支援を行うとともに、諸外国・地域の政府機関、産業関係機関、企業団体との交流を積極的に進め、中小企業に対して海外取引相談、情報提供などの支援を実施します。

決 算 額	26,617,142 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【海外展開支援】 ○OTA ブランドのアジア展開 ・オオタテクノパーク等を拠点として、個別企業マッチングや商談会等を通じてタイ及びアセアン市場開拓を実施しました（支援案件：225 件）。さらに、中国、台湾も同様に連携先との協力のもと市場開拓を実施しました（支援案件：289 件）。 ・アジアにおける 3 展示会への出展支援を 19 社に対して実施しました。 MTA ベトナム展：4 社出展、商談件数 262 件、うち取引成約見込 61 件 FBC 上海展：10 社出展、商談件数 214 件、うち取引成約見込 102 件 タイ METALEX 展：5 社出展、商談件数 522 件、うち取引成約見込 99 件 ○OTA ブランドの欧州展開 ・日欧産業協力センターやドイツ NRW 州等の協力により欧州市場開拓の支援を実施しました（支援案件：133 件）。 ・ドイツ・デュッセルドルフにおける医療関連見本市への出展支援を 5 社に対して実施しました（COMPAMED2014：5 社出展、商談件数 101 件、うち取引成約見込 30 件）	3
【情報提供などの実施】 ○海外取引相談（海外産業情報、貿易実務、販路開拓、取引契約、技術提携、法人設立等）を区内企業に向けて実施しました（相談件数 782 件）。 ○海外市場調査を実施しました。《下図参照》	3
所管部	産業経済部

* 海外市場調査の実施状況

①モゼール（フランス）	・現地企業及び産業状況の視察を実施（7/7～8） ・現地担当官が大田区長への表敬訪問と区内企業の視察を実施（3/10）
②リンツ（オーストリア）	・現地企業 8 社 9 人と大田区企業 10 社 11 人との PiO での交流会を開催（5/16）
③ウィーン（オーストリア）	・現地視察を実施（7/10～11）
④ヴォー州（スイス）	・大田区企業団 7 社 9 人が現地訪問し、相互の産業施設を活用する旨の協定書を締結（6/29～7/2）
⑤NRW 州（ドイツ）	・大田区企業団 7 社 9 人が現地視察を実施（7/3～4） ・おおた工業フェアにブース出展及びセミナーを開催（2/5～7）
⑥ポートランド（アメリカ）	・同州政府主催の視察会に参加（6/4～8）
⑦バンコク（タイ）	・区内企業 8 社 10 人と商談会に参加するとともに現地視察を実施（6/16～21） ・METALEX 展の際に現地視察を実施（11/19～21）
⑧ホーチミン（ベトナム）	・MTA 展の際に現地視察を実施（7/7～11）
⑨上海（中国）	・ものづくり展示商談会の機会に現地調査を実施（9/2～5）
⑩常州（中国）	
⑪高雄（台湾）	・金属研究センターや工業技術研究院等への新製品・新技術の情報収集のため視察訪問を実施（10/6～10）
⑫台北（台湾）	

5 新市場開拓支援(航空・宇宙、医療・福祉、新エネルギー、環境関連分野など)

大学や病院、研究機関などと中小企業との連携による新市場開拓を支援します。研究機関や先進企業から講師を招き、新技術・新素材に関する講義や技術指導を行うことで、新製品開発への足掛かりをつくとともに、企業間や研究機関などとの共同開発事業に対しては、経費の一部を助成します。助成後も数年間にわたり、評価・検証を行い、事業効果を高めます。

決 算 額	20,352,057 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	3
<p>【セミナー・講演会などの開催】</p> <p>○東工大技術交流セミナー※¹を開催（5回、参加者 118人）しました。</p> <p>○東工大流体圧研究会※²を開催（2回、参加者 8人）しました。</p> <p>○横浜国大切削研削研究会※³を開催（11回、参加者 165人）しました。</p> <p>○芝浦工大マイクロテクスチャ研究会※⁴を開催（9回、参加者 82人）しました。</p> <p>○新エネセミナー（熱伝導系セミナー、1回、参加者 36人）、医工セミナー（医科系・歯科系、2回、参加者 87人）を開催しました。</p> <p>○上記セミナー等で喚起した産学・医工連携要望が、産学相談 820件、うち医工連携相談 473件を生み出しました。</p> <p>○医療系製販企業マッチングとして、大田区研究開発型企業と文京区医療系製販企業との技術展示商談会・交流会（大田区企業 21社参加、51商談実施(案件数 66件)、医工連携相談 3件、来場数 100社以上）を実施しました。</p> <p>また、大田区合同技術展示商談会・交流会（大田区企業 14社参加、38商談実施(案件数 55件)、医工連携相談 3件、来場者数は 30社以上）を実施しました。</p> <p>※¹ 微細加工、燃料電池、ロボット制御等、大学で研究されている最新技術をどこよりも早く発表する場です。最先端共同研究のきっかけになるばかりでなく、大田区企業が技術動向の最新トレンドを獲得するメリットがあります。</p> <p>※² 装置開発を主な事業とする大田区企業に好評でした。本テーマで取り上げたアクチュエーター制御は自動車から医療分野に至るまで、新規装置開発のアイデアの源泉となります。</p> <p>※³ 大田区に最もなじみの深い砥粒加工技術(削ったり磨いたり)を中心に、参加者が毎回テーマを決めて講師を招き、ゼミ学習する研究会です。一人親方の大田区企業から大企業であるマザーマシンメーカーまで、車座になって学びあい、情報共有を図りました。</p> <p>※⁴ 金属加工における表面改質は大田区企業の多くが抱える問題であり、本研究会の成果は大手企業からも期待されています。</p>	
所管部	産業経済部

6 ものづくり人材の育成

ものづくりへの興味・関心を高めるには、若い世代からの取り組みが重要です。小中学生を対象とした、ものづくり実践教室や産業のまちスクールなどの、ものづくりの楽しさを体験できる事業を実施し、将来のものづくり人材を発掘・育成していきます。

中小企業が単独で人材育成を行うには、講師や時間の確保など制約が多いため、教育機関や産業団体などと連携し、講習会への助成やセミナーの開催などにより人材育成を支援します。

決 算 額	19,220,138 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【講座・セミナーなどの開催】</p> <p>○以下の講習会及びセミナーを実施しました。参加者の評価は、「満足」、「ほぼ満足」の割合が 97%でした。</p> <p>1 経営技術指導講習会</p> <p>（1）技術指導講習会</p> <p>①新入社員セミナー</p> <p>②CAD 製図初級講座</p> <p>③優しい図面の味方講座</p> <p>④NC プログラミング初級講座</p> <p>⑤実践汎用旋盤・フライス盤講座</p> <p>（2）次世代経営者育成セミナー</p> <p>①強い組織の作り方（2回）</p> <p>②事業承継について考える（2回）</p> <p>2 工業団体実地研修会</p> <p>3 工業団体経営革新支援事業（「講習会等」の実施）</p> <p>4 子ども向け人材育成事業</p> <p>（1）産業のまちスクール</p> <p>（2）ものづくり実践教室Ⅰ（小学1～4年生対象）</p> <p>（3）ものづくり実践教室Ⅱ（小学5～6年生、中学1～2年生対象）</p>	3
<p>【講習会などへの助成】</p> <p>○工業連合会への委託事業として、工業団体が企画する研修会・講習会へ助成（45回）しました。</p>	3
所管部	産業経済部

基本目標 2	まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市
個別目標 3	ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します
施策 2	くらしを支えるあきないを熱く盛り上げます

1 商店街景観整備事業

商店街関係者のほかに地域住民、コンサルタントなどで協議会を組織し、地域における商店街の役割の見直しを検討します。まちづくりの一環として地域特性を活かした商店街の景観整備を行い、来街者の周遊、回遊を促す基盤をつくります。

決 算 額	312,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【候補地 協議会設立、実施計画検討】 ○ミハラ地区では、まちづくり協議会が主催する定例会議に 2 回参加し、10 月の汐風まつりの準備支援アドバイスを行いました。開催当日は視察を行い、当初の予定どおりイベントが実施できたことを確認しました。イベント来街者数は 2,000 人で、悪天候だった前回と比較して 4 倍増でした。 ○景観整備に実績のある中小企業診断士を月 1 回派遣し、役員会でのアドバイス等の支援を行いました。	3
【他の候補地の検討及び選定、計画策定】 ○商店街の定期的な役員会や会員への説明会に職員が 7 回参加し、平成 27 年度に商店会が実施する景観整備事業の課題の整理を支援しました。 ○建築コンサルタントと道路管理者との調整を行い、事業の方向性の整理を支援しました。 ○役員会や会員への説明会に建築コンサルタントの専門家を 1 派遣（19 回）し、具体的な景観整備イメージ資料を配布説明することで商店会員に景観整備の気運を醸成し、事業化の道筋をつけました。また、PR 用サンプルの作成を支援しました。	3
所管部	産業経済部

2 ふれあい商店街事業

商店街会館や空き店舗などを活用して、商店街内に新たなコミュニティ空間となる、お休み処・トイレなどを整備します。

提供する商店街に費用の一部を助成することにより、円滑な運営に加え、地域コミュニティや商店街活性化も含めた活用を支援します。

決 算 額	5,410,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【実施商店街】 ○予定していた空き店舗に入居者が決まったため、事業計画の提出を見送りました。 ○既存の開設商店街の利用促進実績報告を受けることにより、毎月の利用実績を確認し、今後の検討素材とすることができる商店街と課題を共有しました。 また、お休み処の開設から 6 年以上となる商店街に対して、利用促進の具体例をアドバイスしました。	2
所管部	産業経済部

3 商店街イベント・機能向上の支援

商店街が単独で行うイベント事業や複数の商店街が合同で行う広域事業、商店街の機能を向上するための事業に対し、経費の一部を助成することにより、商店街の活性化を促すとともに地域の核としての商店街の機能を充実させます。

決 算 額	191,671,692 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【商店街への助成事業実施】 ◎新・元気を出せ！商店街事業 ○商店街が実施するイベント事業（82 商店街 131 事業）に対し、助成しました。 ◎商店街活性化推進事業 ○区内商店街の女性・若手を中心となり企画・実施し、商店街の活性化に寄与する事業（商店街女性・若手チャレンジ事業）に助成しました（4 団体、羽田ヴィッキーズ、蒲田元気会、武蔵新田商店会、西糀谷商店会）。 ○商店街等が行う地域商業活性化のための PR 活動に要する経費の一部について、補助金を交付しました（大田区発祥あげぱんプロジェクト in TOKYO）。	3
所管部	産業経済部

4 おおた商い観光展の開催

区内の商店・企業・団体を中心に、「商い・観光・匠」といった大田区の魅力を多くの来場者に紹介する展示会として開催します。区内の観光情報の発信や逸品認定を行い、「大田区の観光資源」を全国に向けて発信します。

決 算 額	15,672,591 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【おおた商い観光展の開催】 ○区内・国内外の地域物産や観光情報の交換により大田区の魅力を再発見する場として、「おおた商い（AKINAI）・観光展 2014～来て見て” おおた”、笑顔がいっぱい！～」を開催しました（出展者数 123 商店・企業・団体（通常小間 112、ミニ小間 5）、来場者 10,387 人）。 ○出展後の集客拡大を図るため、出展者向けセミナーを 2 回実施しました。また、来場者に投票してもらい得票が多い出展者を表彰する「いいね！グランプリ」を行い、大田区の地図に出展者をプロットしたガイドマップを作成しました。 ○同時期に開催された「友好都市ふれあいひろば」「さかさ川通り“おいしい収穫祭”」「蒲田映画祭 2014」「商店街どこあるスタンプ★ラリー」と連携して実施して、いずれも多く集客がありました。	3
所管部	観光・国際都市部、産業経済部

5 空き店舗を活用した活性化支援

商店街の空き店舗の実態を把握し、空き情報を広く発信するとともに、空き店舗を活用した取り組みを支援します。

決 算 額	199,800 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【実態調査の検討・実施】</p> <p>○大田区商店街調査を実施した中で、空き店舗の実態とそれに対する商店街の取り組み状況を確認しました。</p> <p>○調査対象の 145 商店街のうち、空き店舗数が 1～4 店舗の商店街は 63 か所で最も多く、5～9 店舗は 28 か所、10 店舗以上は 9 か所でした。また、空き店舗なしは 28 か所でした（残り 17 か所は不明）。</p>	4
<p>【空き店舗の把握・PR 及び支援策の検討】</p> <p>○商店街空き店舗活用事業を開始しました。「商店街応援宅建業者」に登録いただいた宅地建物取引業者の方々からの空き店舗情報を集約して、区のホームページで情報発信しました。</p> <p>○大田区での開業に関心のある人と、商店街の空き店舗を結びつける初めての試みとして、中小企業診断士による「大田区店舗開業セミナー」、「商店街空き店舗現地視察会」を実施しました（参加者 30 人）。</p>	3
所管部	産業経済部

基本目標 2

まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市

個別目標 3

ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します

施策 3

ビジネスがしやすいまち大田区をつくります

1 創業支援

新たに区内で立地を希望する創業者への支援にハード・ソフト両面から取り組みます。創業支援施設の活用をはじめ、窓口相談、優秀な創業者を発掘するコンテストの開催などにより、創業者が立地・事業展開しやすい環境をつくります。

決算額	16,677,420 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【創業支援施設入居者の立地促進】 ○入居者の募集を行い、オフィス 12 室、シェアードオフィス 5 ブースの入居があり、年度末の入居率は 81%（オフィス：93%（27 室中 25 室入居）、シェアードオフィス：44%（9 ブース中 4 ブース入居））でした。	3
【創業者支援相談の実施】 ○産業競争力強化法に基づく「大田区創業支援事業計画」が経済産業大臣・総務大臣の認定を受けたため、創業者支援総合相談窓口を産業振興課に設置しました。 ○相談内容が幅広いため、必要に応じて公益財団法人大田区産業振興協会の創業者支援窓口やビジネスサポートサービスを案内しました。 ○相談件数は 272 件（月平均：22.7 件）でした。	3
【ビジネスプランコンテストの開催】 ○産業振興協会ホームページやチラシの配布により周知に努め、応募総数は 46 件でした。表彰件数は合計 9 件（最優秀賞 1 件、優秀賞 1 件、協賛先特別賞 7 件）でした。 ○受賞者は、受賞プランを掲載したパンフレットと受賞者がプレゼンテーションを行う表彰式のチラシを制作して配布し、PR しました。表彰式実施後は、ホームページに受賞者の動画を掲載し、さらに受賞者の周知を図りました。 受賞者のうち 1 名は、創業支援施設 B I C あさひの使用を平成 27 年 3 月から開始して事業化を進めています。	3
所管部	産業経済部

2 ネットワーク形成支援

中小企業が新事業展開に向けて構築する新たなネットワークの形成を促進するため、必要な経費の一部を助成します。助成後も数年間にわたり、評価・検証を行い、事業効果を高めます。ネットワーク形成を促すため、セミナーや講演会などを開催します。

決算額	1,988,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【新事業活動助成金の交付】 ○区内中小企業の新規事業支援のため、助成を実施しました。平成 26 年度は 7 企業グループの採択枠に対し、10 企業グループが申し込み、書類審査の上 10 企業グループ全てを採択しました。	3
所管部	産業経済部

基本目標 2	まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市
個別目標 3	ものづくりから未来へ、独自の産業と都市文化を創造します
施策 4	大田区の観光を世界に発信します

1 訪日外国人等受入環境整備

増加が見込まれる来訪者を、区内への誘客及び回遊につなげ、大田区ならではの「おもてなし」を提供できるように、来訪者受入環境の整備を進めます。

決算額	17,837,320 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【ウェルカムショップ制度の推進】 ○観光調査員との連携やホームページ、デジタルサイネージなどの広報媒体、観光関連イベントでのPRでウェルカムショップの拡充に努め、登録店舗数は 144 店舗（前年比 6 店舗増）になりました。 ○ウェルカムショップの登録事業者に全店舗対象のアンケート調査と、その回答を基にヒアリングを実施し、現状の課題や今後の取り組みについて整理しました。各店舗にはフォローアップや情報交換を実施しました。 ○外国人おもてなし促進事業補助金を 4 件助成しました。メニューやホームページの多言語化への助成により、外国人来訪者に向けた受入体制の充実を図りました。	3
【まちかど観光案内所制度の推進】 ○観光調査員との連携やホームページ、デジタルサイネージなどの広報媒体、観光関連イベントでのPRでまちかど観光案内所の拡充に努め、登録店舗数は 149 店舗（前年比 5 店舗増）になりました。 ○まちかど観光案内所の登録事業者に全店舗対象のアンケート調査と、その回答を基にヒアリングを実施し、現状の課題や今後の取り組みについて整理しました。各店舗にはフォローアップや情報交換を実施しました。 ○外国人おもてなし促進事業補助金を 4 件助成しました。メニューやホームページの多言語化への助成により、外国人来訪者に向けた受入体制の充実を図りました。	3
【外国人等「おもてなし」事業化】 ○現行の「ウェルカムショップ」登録事業者に対して実施したアンケートや店舗を中心としたヒアリングにより、現況やニーズについて調査し、現状の課題や今後の取組みについて整理しました。	3
【国内外の来訪者の宿泊や活動、交流を支援する「おもてなし」の場の創出】 ○旅館業法の所管である保健所への照会や、特区の動向、その他関連情報の収集に努めました。 ○国家戦略特別区域法における旅館業法の適用除外について、東京都を通じて国に意見照会を行うとともに、特別区保健衛生課長会で検討を行いました。	3
【MICEと連携した外国人等受入環境整備の検討（総合案内機能の整備など）】 ○京急蒲田駅に観光案内所を開設するため、他の自治体の事例や近隣の観光案内所を視察して情報収集に努め、それらを参考に基本計画を策定しました。	3
所管部	観光・国際都市部

*取組事項【ウェルカムショップ制度の推進】と【まちかど観光案内所制度の推進】は一体的に取り組んだため、主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）については同様の記載となります。

2 大田区の産業を活かした観光事業の推進

世界に誇る大田区のものづくりを新たな観光資源として位置づけ、食・グルメや商店街、銭湯、文化などと組み合わせることにより、「オール大田」の産業の魅力の有機的に創出します。

決 算 額	9,511,314 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【食や銭湯など大田区の産業を活かした周遊・回遊・イベントの実施】</p> <p>○産業観光ツアーのニーズを調査するため、旅行会社に委託し、対象を変えたモニターツアーを2回実施しました。</p> <p>○日本人向けの募集は、旅行会社のメールマガジンを使用しました。定員は10人で料金設定は昨年より高いものでしたが、募集を開始した当日に定員に達するなど、関心が高いことが判明しました。また、近郊だけでなく埼玉県や茨城県からの申し込みもあり、産業観光ツアーの商品化の可能性を確認できました。</p>	3
<p>【産業を活かした観光拠点の推進】</p> <p>○「くりらぼ多摩川」の利用促進及び認知度向上のため、各種イベント、ワークショップを実施しました。</p> <p>○町工BAR（月1回開催、全11回、延べ参加者146人）をはじめ、くりらぼワークショップを3回（延べ参加者18人）、日曜モノづくり塾を4回（参加者延べ40人）、夏休みこどもモノづくり塾（参加者延べ54人）などを実施しました。</p>	3
<p>【産業観光に関わる受け入れ整備の推進】</p> <p>○9月から受入整備補助金の募集を開始したところ5件の申請があり、5件全てに補助を実施しました。これまでに補助を行った企業14社のうち、4社に産業観光モニターツアー等の受け入れ協力をいただきました。</p>	3
所管部	観光・国際都市部、産業経済部

3 地域・事業者と連携したにぎわい創出

羽田空港・鉄道などの事業者や、団体・NPO、他自治体との連携を推進することにより、来訪者にきめ細やかな「おもてなし」を提供するとともに、「にぎわい」を創出します。

決 算 額	7,494,000 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【自治体間広域連携の推進（川崎市、品川区など）】</p> <p>◎川崎市との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○川崎市との間で、各種イベントの打合せを通じて情報交換を行いました。 ○「大田・川崎ウォーク」を、川崎区のスタンプラリーと連携して実施しました（参加者 821 人、川崎区スタンプラリーのみの参加者 198 人）。 ○「大田・川崎ちょい呑みキャンペーン」を実施しました。大田区と川崎市内の 25 店の飲食店に協力いただき、各店にてサービスを受けられるスタンプ帳を販売しました（販売実績 1154 部）。 ○「大田・川崎みんなで作るお土産プロジェクト」では、3 回のワークショップを実施し、食品サンプルの手作りキットやご当地サイダーなどの試作品を製作しました。 <p>◎品川区との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○品川区と「品川・大田観光まちづくり推進協議会」において、次の連携事業を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・水辺の魅力を発信するため、京浜運河において「E ボートリレー」（練習会 2 回、参加者のべ 47 人）と「シーカヤックツーリング」（2 回、参加者計 22 人）を実施しました。 ・旧東海道マップを 10,000 部作成しました。 	3
<p>【観光まちづくり団体などへの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大田観光協会が実施する大田の魅力発掘に関する事業と「花子とアン」を契機とした地域活性化事業を支援しました。 ○観光まちづくり補助金を 5 団体に交付し、観光まちづくりに向けた事業を支援しました。 <ol style="list-style-type: none"> ①NPO 法人大森まちづくりカフェ（大森アートフェスタ） ②多摩川七福神実行委員会（多摩川七福神周知事業） ③馬込文士村ガイドの会（ボランティアガイド事業） ④羽田ヴィッキーズ（観光 PR 特使シーズン紹介パンフレット制作） ⑤品川大田まちめぐりガイドの会（ガイド利用案内紹介広報物作成） 	3
<p>【観光推進連絡協議会の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光推進連絡協議会を 2 回実施し、1 回目はオリンピック・パラリンピックをテーマにした講演会と懇親会を開催して活発な情報交換の場を提供しました。2 回目は、メンバーである東京国際空港ターミナル株式会社の協力を得て、羽田空港国際線ターミナルを視察しました。 ○東京空港事務所から提案を受けた「空港経営改革提案事業」に申請し、観光推進連絡協議会として羽田空港から地域に観光客を回遊させる事業に取り組むことになり、連携の機運を高めることができました。 	3

【大田区の観光をサポートする人たちと連携したにぎわい創出事業】

- ㈱ぐるなびと契約し、「大田区観光サポーター」を募集した結果、区内外から 137 人のサポーターが集まりました。その後、㈱ぐるなびが運営する WEB サイト「ぐるたび」内の大田区紹介特設ページで情報発信を行いました（投稿総数 861 件（3/20 現在））。
- 東京オリンピック・パラリンピック開催も視野に入れて情報発信を強化するため、本事業の受託事業者の㈱ぐるなびと「大田区活性化のためのパートナーシップ協定」を締結しました。
- 大田区観光サポーターを対象に研修を 11 回実施しました（参加者延べ 113 人）。研修の中では、投稿のノウハウやコツを学習したほか、懇親会を実施することでサポーター同士の交流を深めることができました。
- サポーターと区関係者、ぐるなび関係者の懇親会を実施し、お互いの懇親を深めました。その中で特に優れた投稿をしたサポーターに賞状を授与し、モチベーションを高めることができました。

3

所管部

観光・国際都市部

4 シティセールス・MICEの推進

メディアなどを活用して情報発信を行い、大田区の認知度を向上させます。関係機関とMICE推進体制を構築するとともに、MICE見本市に出展するなど、区内のコンベンション施設などをPRします。

決 算 額	1,077,264 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
【来～る大田区大使による観光PR】 ○来～る大田区大使を5月に委嘱し、活動を開始しました。 ○観光関連のイベントの他、国際交流関連イベント、海外からの来訪者の対応、観光施策に関する意見交換会等、幅広い活動を年間43件実施しました。観光大使有志によるFacebookでは、多言語で大田区の観光情報を掲載し、平成26年5月に158件であったファン数は、平成27年3月末に696件に増加しました。	3
【メディアなどを活用した情報発信】 ○北米及び東南アジアの観光関係メディア等を対象とし、各1回ずつウェブを活用したプレスリリースを実施しました。北米市場では275のニュースサイトや観光関連サイトで大田区のリリース原稿が掲載されるなど、当初の想定を上回る数のメディアに掲載されました。	3
【MICE推進体制の構築】 ○年間を通じて毎月1回、産業振興協会施設担当とMICE連絡会を開催し、今後の取り組みについて幅広く検討することができました。3月には観光調査員との連携により、ホテル等の宿泊施設の会合で情報収集や情報提供を呼びかけ、連携のきっかけを作ることができました。	3
【MICE見本市の出展】 ○前年度に引き続き、「国際ミーティングエキスポ（IME）2014」に出展しました。2日間で2,050名が来場し、大田区は23社との商談を行いました。イベント主催者、研修担当者、旅行会社等と商談を行い、うち10社ほどが施設利用に向けて関心を示しました。	3
所管部	観光・国際都市部

5 インバウンド誘致の推進

外国人旅行者を大田区に呼び込むため、事業者や他自治体などと連携して、海外の旅行博覧会での情報発信や、海外旅行会社の招請、メディアを活用した海外における情報発信などを行います。

決 算 額	3,640,874 円
主要施策の成果（平成 26 年度の取り組み内容）	進捗状況
<p>【海外の旅行会社・メディアなどに対する情報発信】</p> <p>○観光庁と地方が都道府県の枠を超え、広域連携して取り組む訪日プロポーショナル事業「ビジット・ジャパン地方連携事業」を活用して、韓国・タイの旅行会社・メディアを招請（旅行会社:各国3社6人、メディア:各国3人、両者合計:12人）し、大田市場や池上本門寺等の観光スポットを案内しました。</p> <p>○上記事業により、パワーブロガー※1による観光ブログやFacebook、観光雑誌4誌に大田区の情報に掲載されました。観光ブログ・Facebookは、フォロー数113,300人、観光雑誌は、発行部数275,000部の実績がありました。また、大田区の宿泊施設を拠点とした観光ツアーが造成され、50人を送客しました。</p> <p>※1 特定分野の造詣に深く、一般消費者に対する影響力の大きいブログを提供する人達</p>	3
<p>【海外の旅行博での情報発信】</p> <p>○「ビジット・ジャパン地方連携事業」を活用して、タイ・バンコク、台湾・台北で開催された旅行フェアに出展し、4日間で来場者が30万人を超えました。連携先のブースでは、訪日旅行に関心のある来場者に観光パンフレットを配布して大田区の観光をPRしました。旅行フェアを通じて、大田区観光大使が情報発信するFacebookで新たに約500名のファンを獲得しました。</p>	3
<p>【観光まちづくり団体などとのインバウンド推進体制の構築】</p> <p>○大田観光協会と連携して平成25年度に実施した「第1期外国語ボランティアガイド養成講座」修了者による、外国人を対象としたガイドツアーを3回実施し（参加者延べ24人）、Japan times等広くメディアにも掲載されました。</p> <p>○「第2期外国語ボランティアガイド養成講座」を10回実施（受講者28人）しました。第1期、第2期の受講者間で、ボランティアガイドの会の組織化に向けた検討会を開催しました。</p>	3
所管部	観光・国際都市部